

ライセンス管理から実現するコスト削減

IT資産管理評価認定協会

監事 島田篤

本セッションに記載されたパブリッシャーの製品名、ライセンス制度、価格は、各社HPに掲載されている内容を参考に構成したものであり、各社ライセンス制度の網羅性・正確性を保証するものではないことをご了承願います。

具体的なライセンス制度の確認及び、製品利用の際にはパブリッシャー各社のHPや使用許諾契約書をご確認いただけますようお願いいたします。

クイズ

問題 1

現在調達を検討しているソフトウェアは下記条件の契約形態を選択できます。この製品を調達して3年（36ヶ月）経過時点の支払総額を比較した結果は以下のどれに該当しますか？

<契約形態>

- Perpetual(永続契約)：30万円
- Subscription（非永続契約）：1万円/月

- ① Perpetual（永続契約）のほうが割高
- ② Subscription（非永続契約）のほうが割高
- ③ この情報ではどちらが割高になるか判断できない

※Subscriptionは1年契約で調達。2年目以降の更新有無は現時点で未定

※上記以外の費用は考慮しなくてかまいません

※契約形態と費用以外の条件は両方とも変わりません

問題1のポイント

Subscription（非永続ライセンス）の普及により、
コスト削減の可能性が大きくなった

問題2

下記構成のサーバにOracle Database Enterprise Editionをインストールした場合、必要になるOracle Databaseのライセンスと保守（Software Update License & Support）費用はいくらになりますか。

<サーバ構成>

本体：DELL PowerEdge T130 サーバ MLK

CPU：Intel Xeon E3-1220 v6 3.0GHz, 8M キャッシュ, 4コア

価格：128,500円

① ライセンス： 540万円 保守：110万円/年

② ライセンス：1,140万円 保守：250万円/年

③ ライセンス：2,400万円 保守：525万円/年

※Oracle Technology Global Price List に掲載された単価で計算します

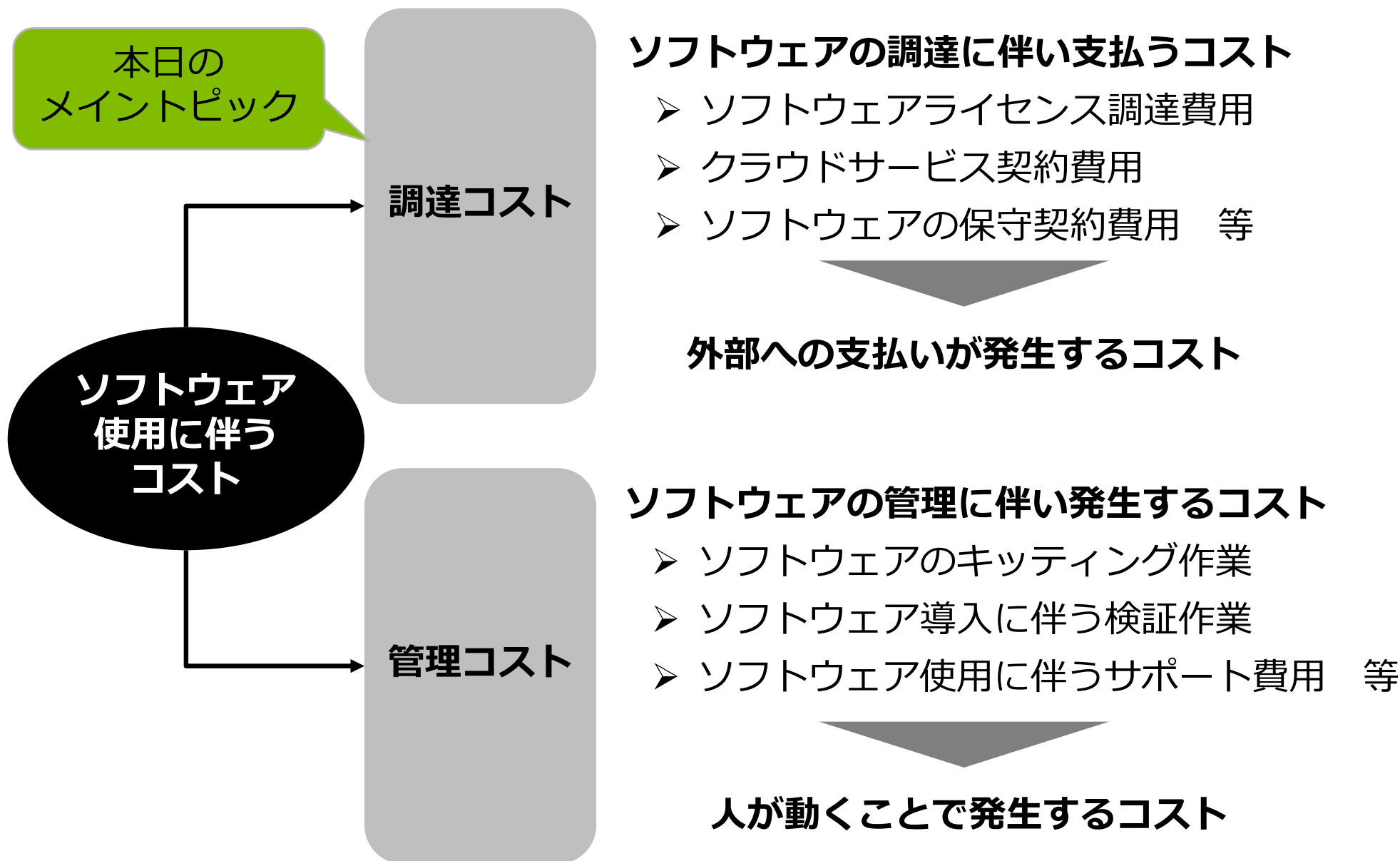
<https://www.oracle.com/assets/e-pl101005-101005a-n-176288-ja.pdf>

問題2のポイント

サーバソフトウェアはライセンス・保守契約ともに高額なものが多い為、ライセンス管理に基づくコスト削減効果も見込める

コスト削減に求められるもの

はじめに：ソフトウェア使用に伴うコスト



ソフトウェアのコスト発生イメージ

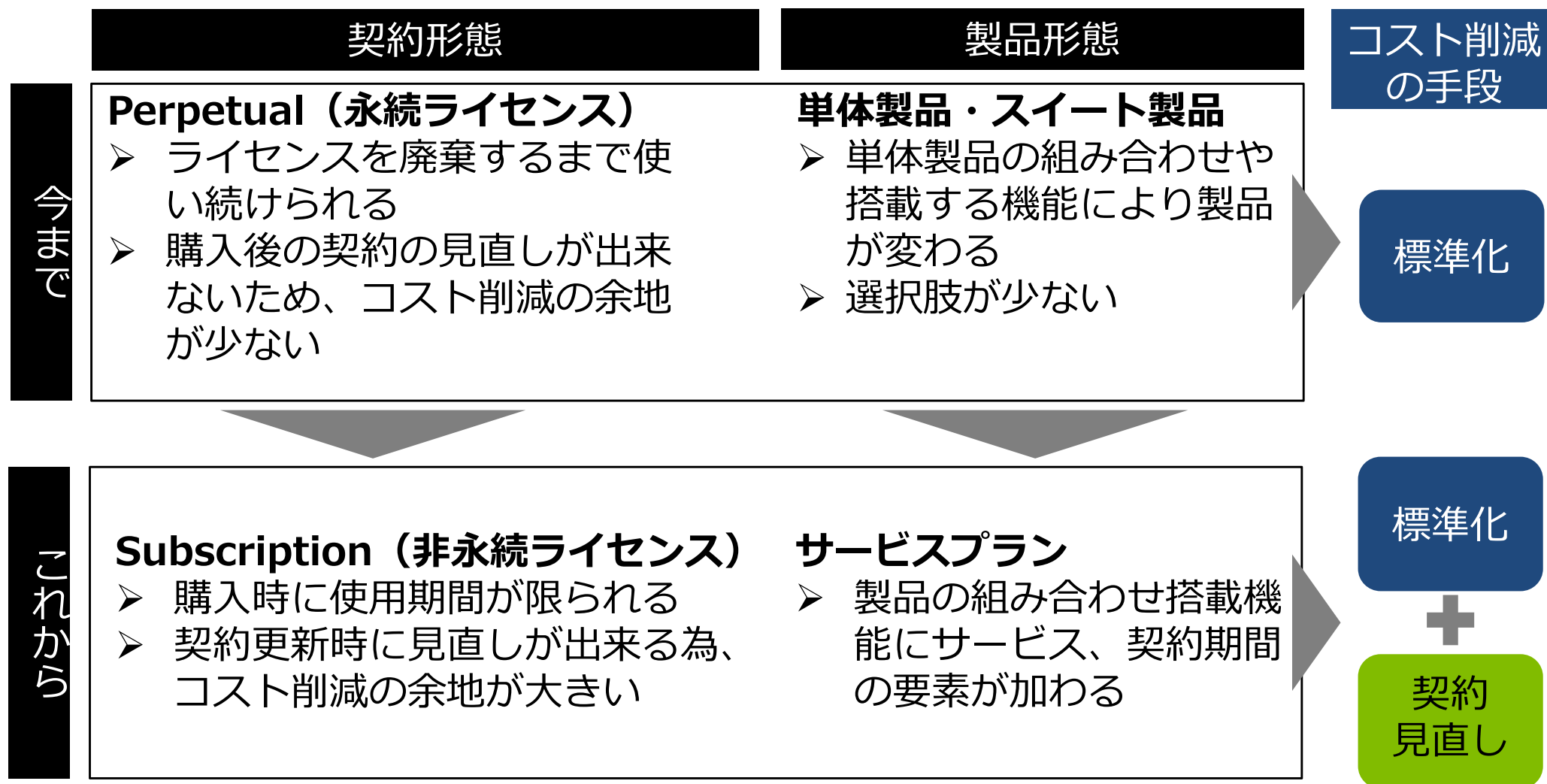
ライセンス管理に基づく
コスト削減を行わなければ



ライセンス管理に基づく
コスト削減を行えば

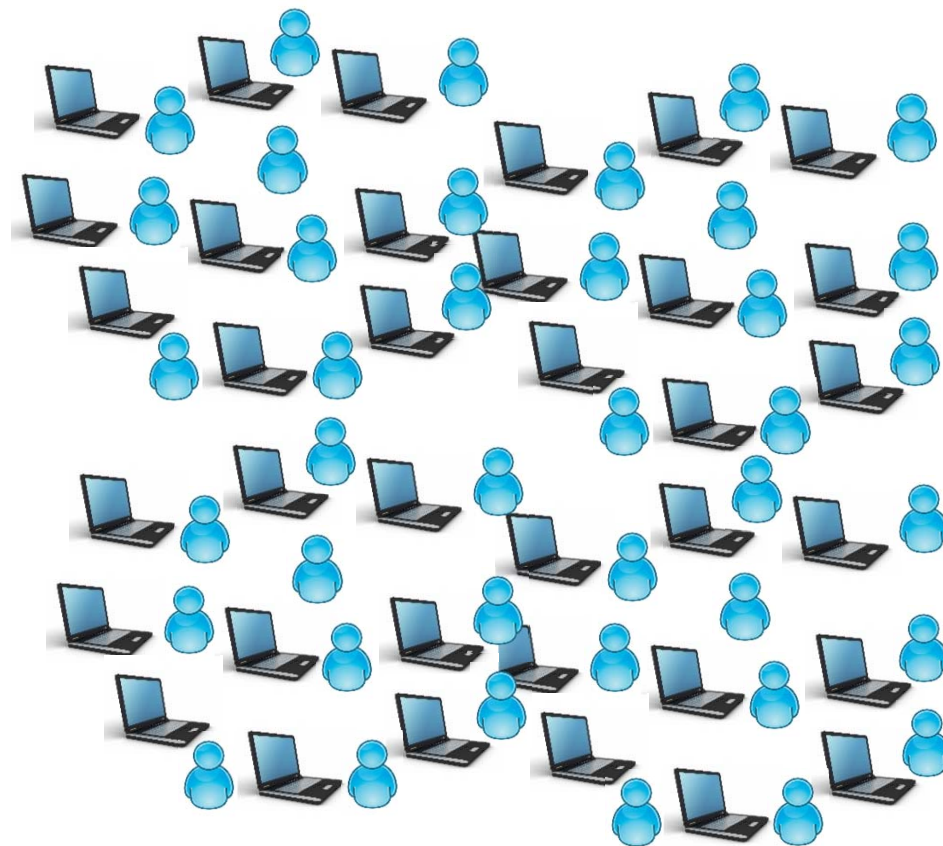


PCソフトウェアのコスト削減



Subscriptionの普及によりコスト削減の可能性が増えた反面、組織に適切な製品を選択できないと、今まで以上のコスト増につながる

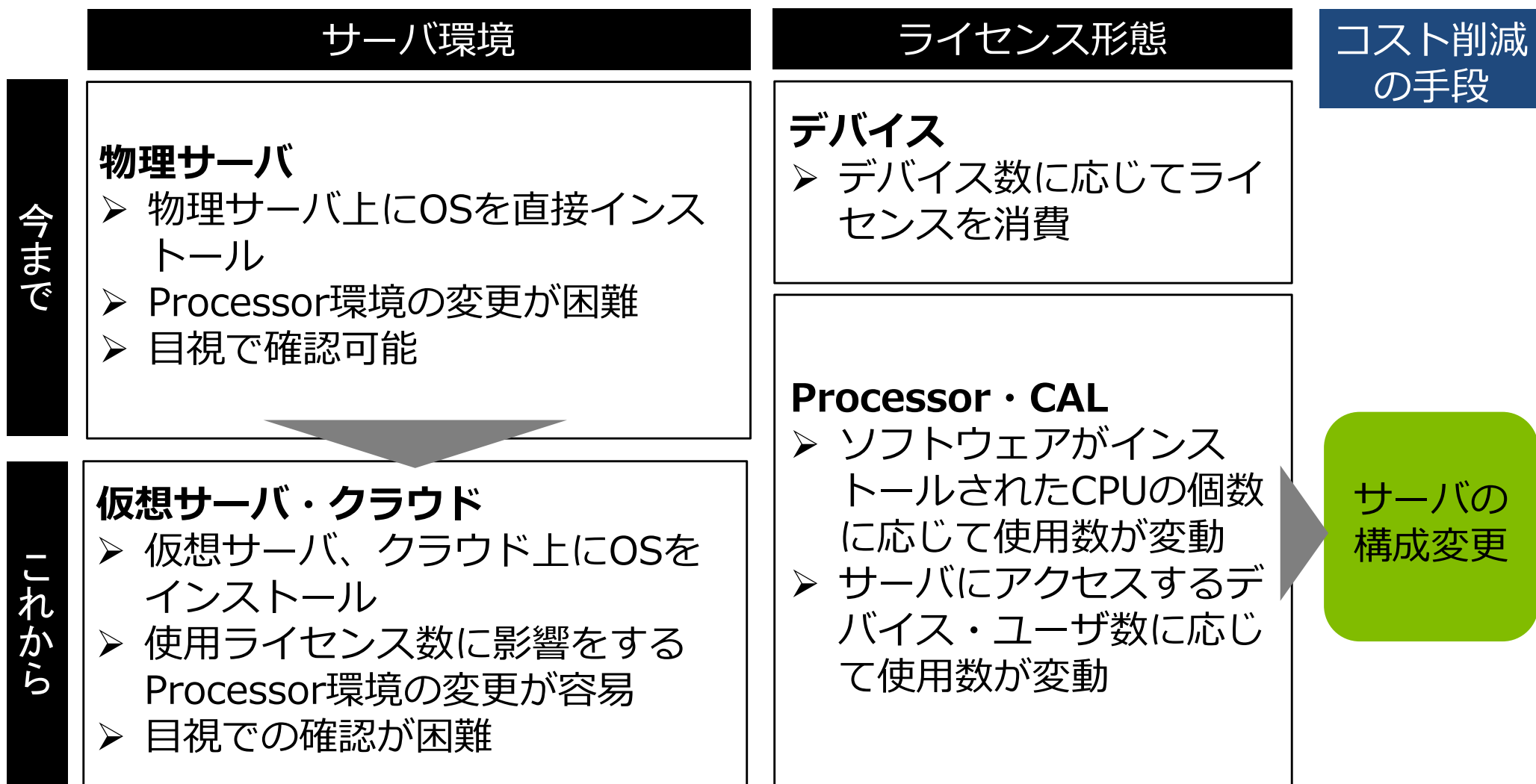
PCソフトウェアのコスト削減に求められるもの



サービスプランの理解

組織のライセンス保有使用状況 (過去)
将来のソフトウェア需要の把握 (未来)

サーバソフトウェアの特徴



仮想サーバ・クラウドの普及によりコスト削減の可能性は増えた反面、使用ライセンス数に影響を与える技術を正しく理解しないと、今まで以上のコスト増につながる

サーバソフトウェアのコスト削減に求められるもの



ソフトウェアの使用許諾条件と
使用ライセンス数に影響を与える技術
(仮想化・クラウド等)

インストールソフトウェア
ソフトウェアがインストールされた
サーバの構成

ソフトウェアのコスト削減に求められるもの



ソフトウェアのコスト削減には「正しい知識」と「正確なデータ」が必須

正しい知識

- 使用許諾条件とソフトウェアの知識
- 使用ライセンス数に影響を与える技術に関する知識

セミナー・HP
からの情報収集

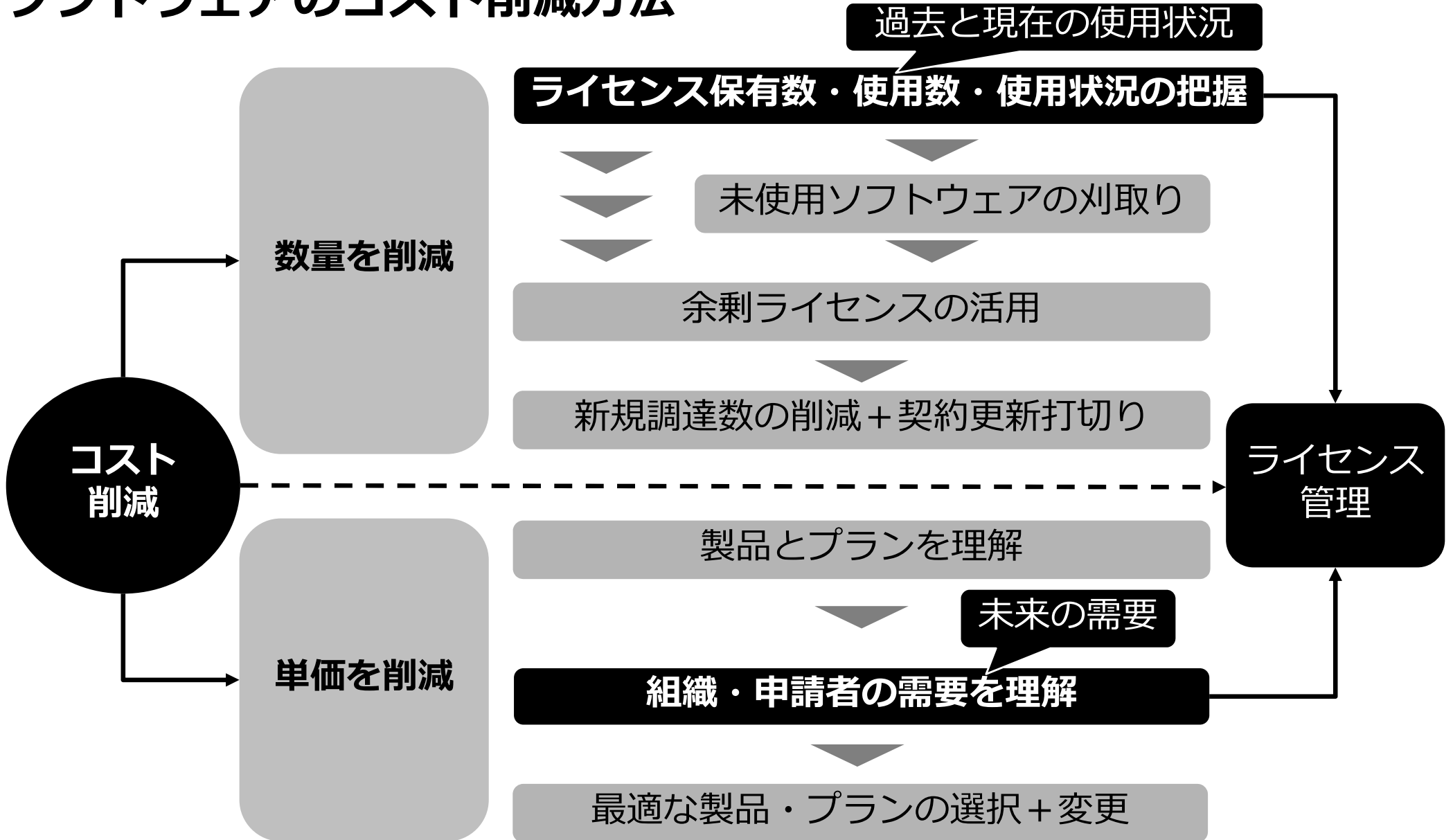
正確なデータ

- インストールソフトウェア、ハードウェア構成等、使用ライセンス数を確認するためのデータ
- ソフトウェアの使用状況に関するデータ

ライセンス管理

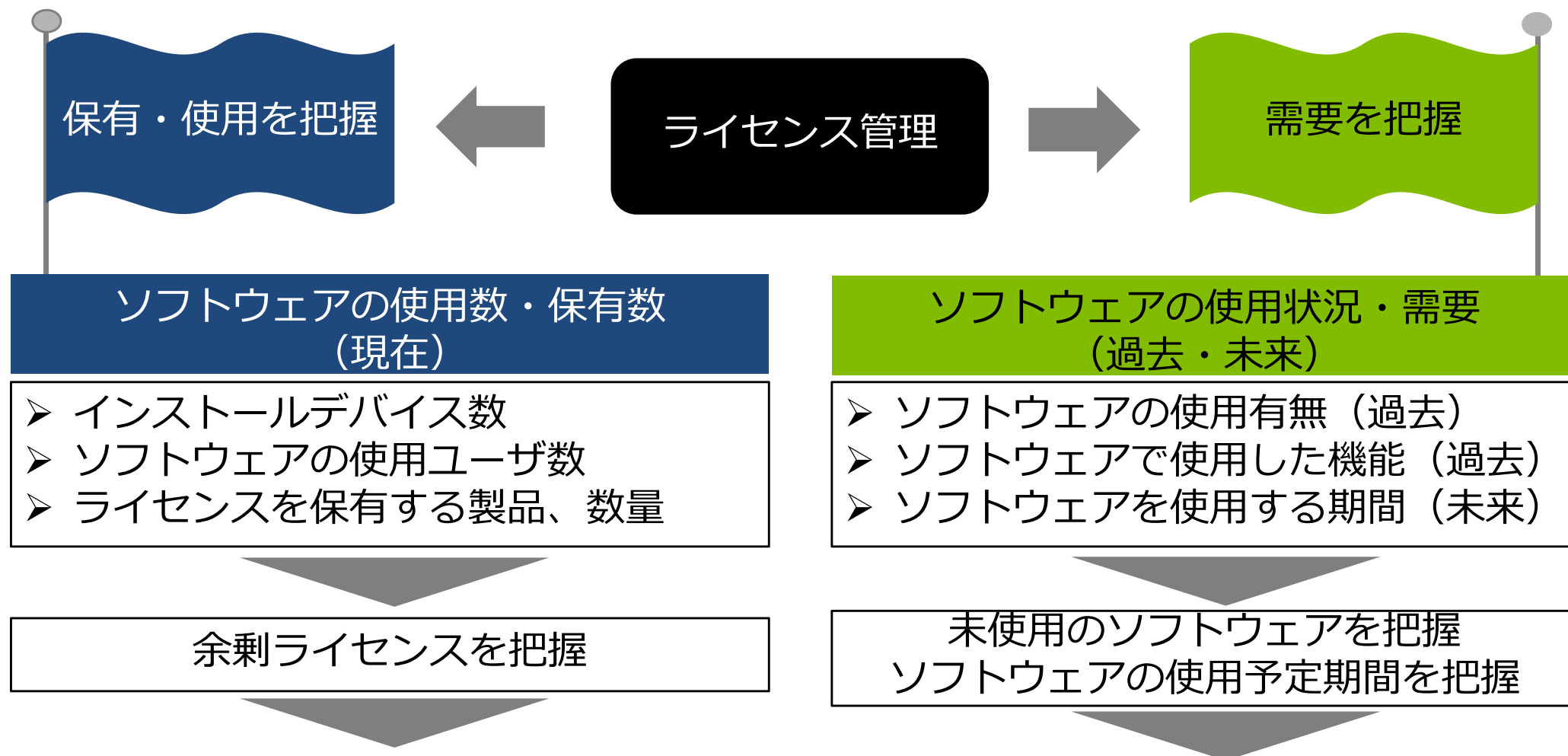
ライセンス管理から実現するコスト削減

ソフトウェアのコスト削減方法



Subscriptionにより契約更新の打切りやプランの変更によるコスト削減が可能に

ライセンス管理データのコスト削減への活用例（PC）



- 未使用ソフトウェアをアンインストールしライセンスを余剰に戻して再利用
- 機能が限定された価格の安いソフトウェアに振り替え
- Subscription契約の更新打ち切り
- 短い期間のSubscription契約で調達

コスト削減例 (PC)

【PerpetualからSubscriptionへの移行】

PerpetualのOffice Professional Plusの保有数が1,000本であった為、Office 365 ProPlusを1,000本契約

- 毎月の支払 : $1,310\text{円} \times 1,000\text{本} = 1,310,000\text{円}$
- 年間の支払 : $1,310,000\text{円} \times 12\text{ヶ月} = 15,720,000\text{円}$

契約期間中
毎年発生



Office 365 ProPlusの使用状況を確認したところ、実際のユーザ数は900人と判明

Office 365 ProPlusの契約数を900本に変更

- 毎月の支払 : $1,310\text{円} \times 900\text{本} = 1,179,000\text{円}$ (▲131,000円)
- 年間の支払 : $1,179,000\text{円} \times 12\text{ヶ月} = 14,148,000\text{円}$ (▲1,572,000円)

事例のポイント (PC)

知識

データ

今まで

Office Professional Plus

- デバイスライセンス
- Perpetual (永続ライセンス)

調達時にのみコストが発生

製品がインストールされたデバイス数を把握

- インベントリ収集ツールで取得

インストール数のみ把握

これから

Office 365 ProPlus

- ユーザライセンス
- Subscription (非永続ライセンス)

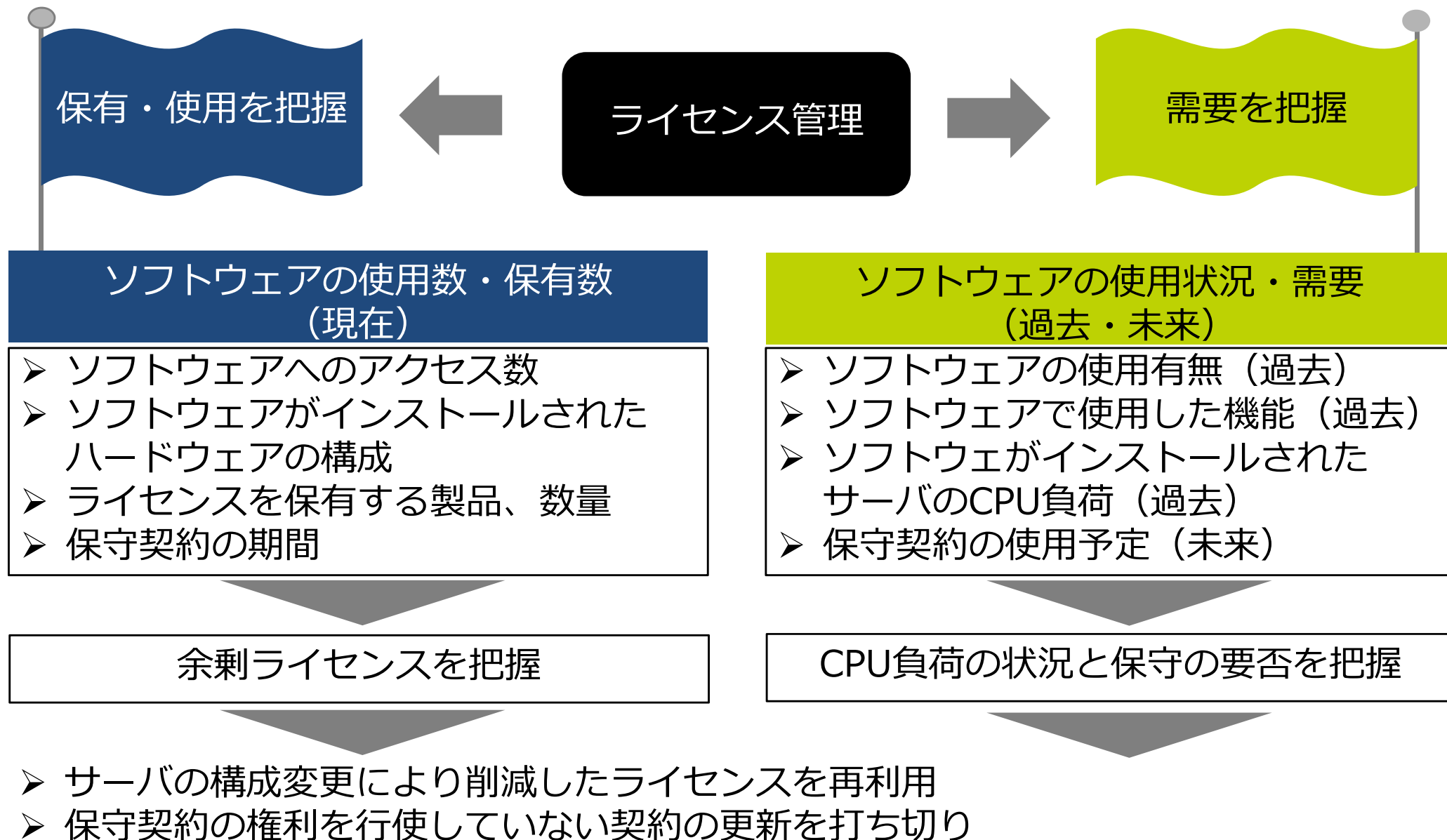
毎年コストが発生するが、更新を止めれば新規のコストの発生は停止

製品を使用するユーザ数を把握

- インベントリ収集ツール・モニタリングツール・Active Directoryで取得

ユーザ数と使用状況を把握

ライセンス管理データのコスト削減への活用例（サーバ）



コスト削減例（サーバ）

【Processorライセンス製品を使用したサーバの新規構築】

Oracle Database Enterpriseを使用したシステムを新規に構築

- Intel Xeon E3-1220 を搭載した物理サーバ上に構築
- ライセンス：1,140万円 保守契約：250万円/年



組織内でOracle製品が導入されたVMwareの仮想サーバが存在すること、当該サーバの稼働率が低いことを確認

Oracle製品が導入されたVMware上に仮想サーバを新設して新システムを構築

※既存のシステムのライセンス、保守契約を流用することが可能

- ライセンス：0円 （▲1,140万円）
- 保守契約：0円/年 （▲250万円/年）

事例のポイント（サーバ）

知識

Oracle Processorライセンス製品

- Oracle製品が稼働するサーバのCPUの性能に応じたライセンスが必要
- VMwareの仮想サーバ上Oracle Processorライセンス製品を導入した場合、物理サーバに搭載されたProcessor分のライセンスが必要
- 上記条件を満たせば、同じ物理サーバ上に同製品が導入された複数の仮想サーバを立てることが可能

データ

Oracle製品が導入されたサーバ環境

- Oracle製品が稼働するサーバが存在することを把握
- VMwareで仮想サーバが構成されており、Oracle製品が導入された仮想サーバをホストする物理サーバとクラスタの構成を把握



サーバ構成の見直しによるライセンス新規調達コストの削減

まとめ

まとめ

ライセンス管理
から実現する
コスト削減

Subscription・仮想化・クラウドの普及によりコスト削減の機会
は増えた

サービスプランと使用許諾条件と使用ライセンス数に影響を与え
る製品を理解する

自組織の環境と過去・現在の使用と将来の需要を把握する

敵を知り己を知れば百戦危うからず（孫子）

**サービスプラン・使用許諾条件を知り、組織の保有・使用・需要を把握すれば
コストの削減は実現可能**



一般社団法人IT資産管理評価認定協会